

チャバス移住地概要 （イタプア県）



チャバス移住地は、アスンシオン首都から南に約 400km 地点に位置しています。第三の都市エンカルナシオン市からは約 30 km の場所に位置しています。

1952 年にパラグアイ政府によってカピタンミランダ隣接の利用されていない土地が自作農促進のため開放され、当時の大統領の名を付けたチャバス移住地が創設されました。チャバス移住地は、パラグアイはもちろん、ドイツ、ロシア、フランス、ウクライナ、ベルギー、オランダ等の移住者からなる国際色豊かな移住地です。

チャバス移住地への日本人入植は 1953 年にラ・コルメナからエンカルナシオン市に転居した日本人 6 家族から始まり、200 家族がチャバス移住地に入植しましたが、60 年代のデフレにより 70 年代には 71 家族に激減し、現在移住地の日系人口は僅か 150 名（28 家族）にまで減少し、現在（2016 年 7 月）、140 人の日本人・日系人がこの地域に居住しています。

今年（2016 年）チャバス移住地は日本人移住 63 周年を迎えました。

チャバス日本人会

チャバス日本人会は 1955 年に設立され、日本人会の運営に加え、日本人会館内にあるチャバス中央日本語学校の運営、文化活動、体育、福祉等関連事業等を行っています。日本人会の傘下には相生会、婦人部及び青年部の 3 つの系統団体があります。



チャバス日本人会

◎相生会：チャバス移住地在住の 60 歳以上の日系人の親睦団体です。ゲートボールなどのスポーツにより、健康増進にも努めています。

◎婦人部：チャバス日本人会会員のご婦人方による団体です。敬老会など日本人会主催行事での昼食などの各種協力のほか、バレーボールなどのスポーツ活動や、料理講習会なども行われています。



チャバス入植記念碑

◎青年部：チャベス日本人会会員の青年による団体です。日本人会行事での売店の設営・販売などで協力するほか、サッカーなどの各種スポーツ活動を行っています。

現在のチャベス移住地にはこの青年層が減少しているため、青年部 OB による活動が主となっていますが、現在高校生から中学生の世代まで育ってきている日系三世の青年達が、将来的に活動できる場としても期待されています。

社団法人 チャベス日本人会

住所：イタプア県カピタンミランダ郡チャベス移住地 Calle D-5 Capitan Miranda Itapúa-Paraguay

電話：(021)3271477

E-mail: aso.jap.chavez@gmail.com

チャベス中央日本語学校

1955 年栄日本語学校が開校され、その後、栄・旭地区合併校を建設し開校しました。1974 年に中央地区に日本語学校が建設され、これらの学校は中央地区に統合しました。しかし、1990 年ごろから児童（二世）の世代がいなくなり、一時休校となりましたが、日系三世の入学で学校は再開し、1994 年には幼稚園も開園したものの、児童の減少により 2011 年以降休園となっています。



チャベス中央日本語学校

現在（2016 年 7 月）、全校生徒は 7 名であり、教員数 3 名（1 名は補助）と言う状況です。

行き方

エンカルナシオン市からエステ市（国道 6 号線）に向かって約 20 km 地点に南部穀物道路との交差点があります。同交差点を左に曲がり（D 線）、約 10 km 地点にチャベス移住地があります。

アスンシオン市から向かう場合は、国道 1 号線（アスンシオン市からエンカルナシオン市）の 320 km 地点のカルメン・デル・パラナ（イタプア県）から南部穀物道路にアクセスし、フラム市とラパス市の間にある交差点（Cruce UPISA）を右に曲がり（南部穀物道路 D 線）チャベスに行くこともできます。

ラパス市からチャベス、カピタンミランダ、そしてエンカルナシオン市まで La Frameña というバスが運行しています。

関連リンク

チャベス移住地の歴史等のより詳しい情報は、以下のパラグアイ日本人会連合会の HP をご覧ください。

<http://www.rengoukai.org.py/ja/institucional/miembros/asociacion-japonesa-de-fed-erico-chavez>

パラグアイ日本人会連合会：イグアス日本人会を含むパラグアイ国内の9日本人会、文化協会と1日系団体で構成された法人（1970年9月8日創立）